

建設経済委員会行政視察報告書

1. 実施日 平成23年11月15日（火）～11月16日（水）

2. 観察地 1) 岡山県津山市（11月15日）

2) 広島県福山市（11月16日）

3. 観察項目 1) 津山市「つやま新産業創出機構による産業振興について」

2) 福山市「ばらのまち福山の取り組みについて」

4. 出席者 委員長 山田 喜弘

副委員長 川合 敏己

委員 林 則夫・亀谷 光・山根 一男・酒井 正司・伊藤 壽

議会事務局 角南 玲子

5. 観察結果報告（津山市）

（1） 観察地の概要

県北の美作地方及び津山都市圏の中心都市であり、人口11万人を擁する県下第3の都市である。しかし第2の都市である倉敷市とは、人口35万人以上もの差がある。津山藩の城下町から発達した都市で、市街地は旧苦田郡に含まれる。市全体では勝田郡・久米郡・苦田郡の3郡に跨る。

シンボルキャラクター・活波鶴丸・さくら姫、環境ヒーロー・津山太郎助となかまたち等のご当地キャラがいる。

面積：506.36 平方キロメートル

人口：107,387人（世帯数：43,914）

産業別就業人口（平成17年国政調査より）

：第一次 4,090人 第二次 15,185人 第三次 32,923人 分類不能 644人

（2） 観察の目的

津山地域の産業振興施策を観察する

・つやま新産業創出機構について

・津山ステンレスクラスターについて

・津山食料産業クラスター形成について

※クラスター：花や葡萄などの房の意味。「同種のものや人の集まり」という意味合い。

(3) 視察の内容

● 「つやま新産業創出機構」による産業振興策について

この機構は津山市と津山商工会議所が連携してできた組織である。特徴は行政とは異なる、「選択と集中」によって産業支援活動を行なっており、エリア内のリーディング産業の育成をしたり、支援をすることにより、地場産業の中から強い技術・商品・サービスを持っている企業を探し出し、オンリーワンとして輝ける産業の育成を図っている。新商品、特産品開発、農産物の产地形成による津山地域の産業振興を目指している。そのために意欲ある企業・事業者のグループ化や産官学民、農商工連携をツールとした新技術・新商品開発から販路開拓まで一貫的にサポートする仕組みである。また産業クラスターを形成し、異分野、異業種ともネットワークをつくり、新たなアイデアや技術をもとに競争力のある製品・商品を市場に送り出す仕組みづくりを推進している。

ご当地グルメとして、津山ホルモンうどん、津山バーガー、津山ロール、津山餃子などがあるが、これらの商品もこうした仕組みから生まれ、育て上げられている。

設立：平成8年4月

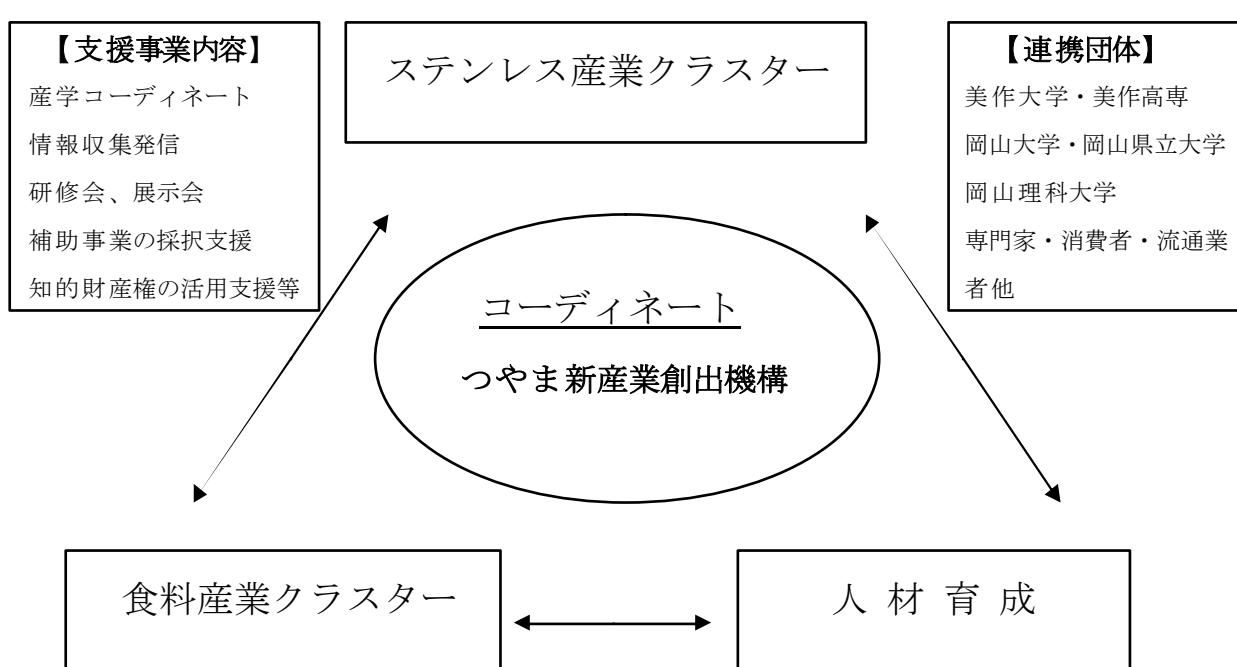
事務局：津山市役所内

メンバー：常駐職員9名(産業活性化アドバイザー3名、地域産品販売促進サポートマネージャー1名、津山市新産業創出課津山ブランド係職員5名)

津山商工会議所半常駐職員1名

予算：平成22年度実績24,780,000円(内、津山市補助金19,070,000円)

「つやま新産業創出機構」スキーム図：



(4) 質疑応答

問：つやま新産業創出機構は市役所の出先機関であるのか？

答：市から補助金をもらっている任意団体である。



問：商工会議所との関係は？

答：機構たちあげ時は積極的連携を図り奔走していた。現在の機構の会長は商工会の副会頭である。

問：組織たちあげに当たり行政の主導で研究され立ち上げたのか？

答：当時アドバイザーをしていただいた方が研究され、当初は技術交流プラザとして立ち上げた。

問：機構では職員が中心となって産業振興活動しているのか？

答：主にアドバイザーが中心に産業振興を考えて活動している。例えば新商品等の開発は進める、進めないの判断もお願いしている。

問：アドバイザーはどういった方がなされているのか？

答：一般企業のO B、民間からの有識者を面接、試験をして採用している。

問：ステンレス産業クラスターを形成しているが、一方で物づくりの空洞化は存在しないか？

答：ステンレスの技術は特殊であり海外では手が出せない状況である。国内も好調のためステンレス産業に関して空洞化はしていないが、今後は可能性もあり得るだろう。

(5) 考察（まとめ）

津山市では産業振興を行なうために「つやま新産業創出機構」という行政から一歩進んだ（離れた）組織体をつくり、「選択と集中」により数ある産業の中から、ステンレス産業と食料産業を拾い上げるに至った。

また、産業界の中で協働と連携を図れる仕組みをつくりあげ、仕事内容が違う企業や個人がチームを組んで知恵を出し合うことにより、新しいシステムに基づく、特色ある商品を作り出していくことが出来るようにしている。

可児市の産業振興を図るために、どうすべきであるか。大変に難しい課題ではあるが、やはり「つやま新産業創出機構」のような、こうした事を専門的に研究する組織体が必要であろう。現状を認識し分析する事が必要と考える。可児市の強みと弱みは何であるのか？可児市が他市に負けないものは、何を伸ばしていくのか？ナンバーワンでなくともオンリーワンにはな

れるものは何か？市内産業全てを調査・分析してその中から光るものを見つけ出しが、産業振興の基礎固めになる重要な第一歩であると認識をした。

しかし仮にこうした分析をして市内で何かしら見出しが出来なかつた場合は、その可能性を市内に限らず広域で考え可能性の選択肢を増やすことも必要であるかも知れない。

6. 観察結果報告（福山市）

（1）観察地の概要

福山市は広島県の東南端に位置し、四季を通じて穏やかな気候と瀬戸内海国公園屈指の景勝地「鞆の浦」や山野崎県立自然公園など豊かな自然に恵まれ、古くは備前10万石の城下町として栄えた。

1916年に市制を施行し、近代都市の第一歩を踏み出しだが、1945年8月8日の戦災により、市街地の8割が焦土と化した。その後、1964年の備後工業整備特別地域の指定を契機に工業都市として急速に発展し、今日では近代重工業と地場産業が相乗的に栄える備後地方の中核都市である。

「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市～ばらのまち福山～」を将来都市像として掲げ、「だれもが住んでみたいまち」を目指している。

面積 518.07平方キロメートル

人口 473,041人（平成23年10月末現在）

産業別就業人口（平成17年国勢調査）

第一次産業 4,183人、第二次産業 73,975人、

第三次産業 140,202人、分類不能 4,295人

（2）観察の目的

『めざそう 100万本のばらのまち福山』を合言葉として市民と行政が一体となったばらのまちづくりの取り組みについて観察。

（3）観察の内容

ばらのアクションプランを中心にはらのまちづくりに関する事例について担当者より説明を受けた。

平成22年3月「ばらのアクションプラン」が策定された。これは市民の代表者による「100万本のばら市民会議」から出された提案や、市民からの意見を基に「100万本のばらのまち 福山」を実現するための行動計画である。この行動計画に基づき市制100周年の平成28年度内に100万本を目指すというものである。55万本（平成20年3月現在）を各分野別に目標を設定。「みんなで取り組む事業」「行政が取り組む事業」「市民・各種団体が主に取り組む事業」としている。「みんなで取り組む事業」では、福山市を代表する場所や、市の内外の方々が多数訪れる場所等を中心に、集中的、効果的に植栽を行うことにより、新たなばらの名所を創設する。「行政が中心に取り組む事業」では、市内各地域へ、市の花「ばら」

がより一層浸透するように、市の施設、管理地へばらを植栽する。「市民、各種団体が主に取り組む事業」では、市民一人ひとりの取り組みや各種団体等が行う事業、地域花壇を通じ、地域から自主的に植栽本数の増加が図られことにより、市内各地域でばらが体感できる「ばらが咲き誇るまち」を目指している。具体的には家庭において約412,800本（平成20年3月現在）から770,000本へ増やすなどがある。その他の主な取り組みとして、

- ・福山ばら大学・・・初心者などへの、ばら栽培基礎技術の習得講座を開催。地域花壇の指導者的人材育成。
- ・ばら公園・・・入園料無料の1.5haの園内に280種5,500本のばらを植栽。
- ・緑町公園ばら花壇・・・一般市民からオーナーを募集し、団体・企業・個人がオーナーとなって市民参加のばら花壇として管理。
- ・福山ばら祭の開催・・・毎年第三の土曜・日曜日に開催。80万の人が訪れる。
- ・折ばらの普及・・・ひとつの折ばらに平和の願いを込めてとして誕生した折ばらを全国にPR。
- ・ばら苗の無料配布・・・「100万本のばらのまち」を目指し意欲のある市民にばら苗を無料配布。

（4）質疑応答

問：ばらサミットはどんな企画だったのか。

答：参加市の取り組みの発表、市制95周年として記念講演と分科会を行った。

問：ばらの維持管理には手間がかかるが、家庭への資材の配慮はあるのか。

答：ばらの手入れは大変と聞いているが、育てていくなかで愛情も深まる。また協働という視点からも肥料や水やり等の手入れ維持管理は各自で行って頂きたい。今後一定規模の広さについて肥料の補助制度を考えたい。

問：ばらのアクションプランは市民の意見をどのように取り入れているのか。

答：2016年100万本実現むけて市民の意見が網羅されていると考えている。

問：苗を無料配布しているが、市内の業者との関係について民業圧迫ということはないか。

答：ばら栽培農家は市内に一軒しかなく、そこから購入しているので、業者との競合はない。

問：ばらを生かした地域産業への貢献の事例はあるか。

答：ばら祭委員会の中にはばらグッズ部会があり、ばらグッズを募集し認定して、販売している。また「備後ふくやま丸ごと物産館」でも販売している。

問：新品種の開発をどのようにしているのか。

答：園芸センターで行っており、「スマイルふくやま」「チャーミーふくやま」等の新品種を開発している。

（5）考察（まとめ）

福山市はばらを通じてこれだけの行動計画が策定されている。またばらを育てる事によって、ローズマインドつまり思いやりや優しさを育てていこうとする取り組みは大変すばらしいものであり、本市にも取り入れていくべきでなはないか。また、職員の制服にもばらの色を採用し、名刺にもばらのシンボルマークなどを使うなど職員の取り組む姿勢が本市と大きく異なる。

さらにオーナー制度も含めて地域との関わり合いを個人がもてる取り組みでもあり公共心も育まれる。心を育てるということはなかなか難しいことである。100万本のばらのまちを目指す事によってそれを達成しようとして具体的に一步ずつ行動していることなど、来年本市で行われるばらサミットに向け、大いに参考にし、ばらのまち可児と自信をもって言えるような今後の行動が肝心ではないか。



可児市議会 建設経済委員会 行政視察行程表 11月15日(火)～16日(水)

月日	行 程		視 察 先		調 査 事 項	
11月15日(火)	名鉄特急 名鉄特急 (集合) 新可児駅 —— 西可児駅 —— 名古屋駅 = 7:20 7:29 7:39 8:23/9:15 のぞみ11号 JR 快速ことぶき === 岡山駅 ——— 津山駅 … (昼食) … 10:55/11:11 12:17 … 津山市視察 … (夕食) … (宿泊先) 13:30～15:00 18:30～		岡山県津山市 人口 : 107,449人 面積 : 506.36km ² 〒708-8501 岡山県津山市山北520 TEL 0868-23-2111(代)・0868-32-2140 FAX 0868-32-2160 議長: 西野 修平 様		●つやま新産業創出機構による産業振興策について	
11月16日(水)	JR 快速ことぶき ひかり493号 (宿泊先) … 津山駅 ——— 岡山駅 ==== 7:30 7:53 9:07/9:22 = 福山駅 … 福山市視察 … (昼食) … 9:37 10:00～12:00 のぞみ30号 … 福山駅 ===== 名古屋駅 —— 13:31 15:29/15:52 名鉄 名鉄 名鉄 — 犬山駅 — 西可児駅 — 新可児駅 16:18/16:21 16:30 16:40		広島県福山市 人口 : 466,009人 面積 : 518.08km ² 〒720-8501 広島県福山市東桜町3-5 TEL 084-921-2111(代)・084-928-1123 FAX 084-920-1104 議長: 徳山 威雄 様		●ばらのまち福山の取り組みについて	
建設経済委員会	◎ 山田 喜弘	○ 川合 敏己	議会事務局	角南 玲子	〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地 岐阜県可児市議会事務局 TEL 0574-62-1111(代) 0574-61-1835(直通) FAX 0574-63-3972 合計 8人	
	林 則夫	亀谷 光				
	山根 一男	酒井 正司				
	伊藤 壽	◎委員長 ○副委員長				